

平成二十八年年度

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）

試験問題表紙

解答上の注意

1. 表紙一枚、問題用紙四枚、解答用紙五枚があるかどうかを確認すること。
2. 国語科教育（問題一）・国語学（問題二）・近代文学（問題三）・古典文学（問題四）の四分野のうちから一分野を選択し解答すること。
3. 「日本語教育」分野志望者は、必ず「問題二」を選択すること。
4. 選択した分野を、解答用紙（その一）にある選択受験分野表の選択分野欄に○印を入れて示すこと。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入すること。
選択しない分野の解答用紙には、用紙全面に「×」を大きく表示すること。
6. すべての解答用紙の受験番号欄に受験番号を必ず記入すること。
7. 試験終了後は解答用紙のみを回収するので、解答用紙以外はすべて持ち帰ること。

中期

27. 11. 28

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)
試験問題 (国語科教育) 問題用紙全四枚 (その一)

問題一 次の記述は、学習指導要領における「伝統的な言語文化」に関する指導事項を抜き出したものです。これを参考として、後の問いに答えなさい。

○小学校学習指導要領 国語

- 〔第1学年及び第2学年〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項
〔ア〕 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。
- 〔第3学年及び第4学年〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項
〔ア〕 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。
- 〔イ〕 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。
- 〔第5学年及び第6学年〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項
〔ア〕 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
(文部科学省URL：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youyou/syo/koku.htmによる)

○中学校学習指導要領 国語

- 〔第1学年〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項
〔ア〕 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。
- 〔イ〕 古典には様々な種類の作品があることを知ること。
- 〔第2学年〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項
〔ア〕 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。
- 〔イ〕 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。
- 〔第3学年〕 ア 伝統的な言語文化に関する事項
〔ア〕 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。
- 〔イ〕 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

(文部科学省URL：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youyou/chu/koku.htmによる)

問一 学習指導要領においては、「伝統的な言語文化」をどのようなものとしてとらえているか。右の記述から考えて書きなさい。

問二 あなたの考える「伝統的な言語文化」とは何ですか。右の記述にとらわれることなくあなたの考えを書きなさい。

問三 校種を決めて、あなたの考える「伝統的な言語文化」の教材と指導法とについて書きなさい。

※「日本語教育」分野志望者は、この問題を選択してください。

問題二 次の問いに答えなさい。

問一 次の(ア)～(エ)の四つの語句の中から二つを選び、それぞれ説明しなさい。選択した語句は、記号を解答用紙に記しなさい。

(ア) 連体詞

(イ) 重箱読み

(ウ) ヴォイス (態)

(エ) レアリア

問二 次の二つの問いに答えなさい。

① 形容詞語幹に付く接尾辞「さ」と「み」の意味の違いを説明しなさい。

② 日本語のカタカナ表記について、知るところを述べなさい。

問三 日本語に見られる「敬語」の特徴について、具体例を挙げつつ説明しなさい。また、教育において、「敬語」をどのように扱うべきか。国語科教育または日本語教育の立場から具体的に論じなさい。

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)
試験問題 (近代文学) 問題用紙全四枚 (その三)

問題三 近代文学に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の物語の「語り手」について分析しなさい。

著作権の関係により掲載いたしません

問二 次の事項の中から二つを選択し、日本文学史および国文学研究の歴史を踏まえて具体的に説明しなさい。なお、選択した事項の番号を解答欄の上部に記すこと。

- ① 言文一致
- ② 雑誌『新思潮』
- ③ 内包された読者
- ④ 全知視点の語り手
- ⑤ 横光利一とその文学

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）
試験問題（古典文学） 問題用紙全四枚（その四）

問題四 次の文章は『奥の細道』の一節である。これを読んで後の問いに答えなさい。

けふハ、親しらず子しらず・犬もどり・駒返しなど云北国一の難所を越て、つかれ侍れば、枕引よせて寝たるに、一間隔て、おもて面の方に、若きをんなの声二人計ときこゆ。年寄たるをこの声も交て、物語するをきけば、越後の国新潟と云所の遊女なりし、伊勢に参宮するとて、此関までをこの送りて、あすハ古里にかへす文したゝめ、はかなき言伝などしやる也。「白波のよする汀に身をはふらかし、あまのこの世をあさましう下りて、定めなき契、日々の業因、いかにつたなし」と物云を聞く寝入て、あした旅だつに、我くむかひて、「行衛しらぬ旅路のうさ、あまり覚束なう悲しく侍れば、見えがくれにも御跡をしたひ侍らん。衣の上の御情に、大慈のめぐみをたれて、結縁せさせ給へ」と、なミだを落す。不便の事にハおもひ侍れども、「我くハ、所くにてとゞまる方おほし。唯人の行にまかせて行べし。神明の加護、必つゝがなかるべし」と云捨て出つゝ、あはれさしばらくやまざりけらし。

一家に遊女も寝たり萩と月

會良にかたれば、書とゞめ侍る。

（新編日本古典文学全集『松尾芭蕉集②』（一九九七年、小学館）より一部改変）

〔注〕

○親しらず子しらず・犬もどり・駒返し……今の新潟県糸魚川周辺の断崖が海に迫った交通の難所。

○伊勢……伊勢神宮。一生に一度は参詣すべきものと考えられていた。

○衣の上……芭蕉も弟子の會良も僧形をしていた。

○大慈のめぐみ……仏・菩薩の広大な慈悲。

○結縁……仏道修行の縁を結ぶこと。

問一 文中の傍線を付した箇所について、言葉を補いながら口語訳しなさい。また、発言にこめられた意味をわかりやすく説明しなさい。なお、この箇所は「白浪のよするなぎさに世をすぐすあまの子なれば宿もさだめず」（『和漢朗詠集』遊女 海人詠）を踏まえて書かれている。

問二 文中の発句について、鑑賞文を書きなさい。

問三 芭蕉に同行した弟子の會良の『會良日記』には、この一節に相当する記事がないことから、ここは芭蕉の創作であろうと考えられている。芭蕉はどのような意図でこの一節を書き記したのだろうか、思うところをわかりやすく説明しなさい。

問四 俳諧の歴史について、芭蕉以前と以後に分けて知るところを述べなさい。

問五 芭蕉（一六四四～一六九四）は江戸前期の俳人である。芭蕉と同時代の文学について具体的に作品名を挙げつつ、知るところを述べなさい。